

## 2018 年度活動報告：もう 1 つのメガネは可能だ

Think globally, act locally (大きな視野で考え、身近なところで行動を起こす)

2019 年 3 月 17 日

### 1、Think globally 報告

もう 1 つのメガネは可能だ、そのメガネこそ市民立法に挑戦する私たちの最大のツール。

私たちには 2 種類のメガネが必要。

- ・ 認識のメガネ
- ・ 理念（倫理）のメガネ

#### ・ 認識のメガネ

3・11 以後の戦争を認識するメガネ。このメガネをかけた時、

原発事故は 2 度発生する、

一度目は「自然と人間の関係」で過酷事故（惨劇）として。

二度目は「人間と人間の関係」で犯罪として。

子どもの命・人権を守るはずの者が「日本最大の児童虐待」「日本史上最悪のいじめ」の当事者に。

加害者が救済者のつらをして、命の「復興」は言わず、経済「復興」に狂騒。

被害者は「助けてくれ」という声すらあげられず、経済「復興」の妨害者として迫害。

密猟者が狩場の番人を。盗人が警察官を演じている。狂気が正気とされ、正気が狂気扱いされる。

それは「**全てがあべこべ**」の「**見えない廃墟**」の世界の出現。

#### ・ 理念（倫理）のメガネ

一度目は過酷事故（惨劇）として、二度目は犯罪として人々を苦しめる原発事故に対して、何をなすべきかと正面から向き合うメガネ。このメガネをかけた時、

3・11 以後の私たちに残されていることは、

「あべこべ」の異常事態をただし、正常に戻すこと、

開き直って経済復興とお祭り騒ぎの異常事態を突き進むこの国を正気に戻すこと、

放射能災害において「命こそ宝」という大原則を取り戻すこと、

それが、その最初の一步が「原子力災害から私たちの命・健康・暮らしを守る世界最初の人権宣言 = チェルノブイリ法の日本版の制定」。

ここまで辿り着いた時、私たちは本当の課題に直面する。それが、

日本社会が持つ最悪の要素の全てが露呈した 3・11 以後の「**全てがあべこべ**」の暗黒時代にチェルノブイリ法日本版の制定は可能だろうか。無理なんじゃないか。

可能である。決して無理ではない。

なぜなら、3・11 以後に出現した「あべこべ」は生半可でなく、悪のあべこべだけでなく、政治を一握りの職業的専門家に任せる「お任せ民主主義」から、アマチュアの市民が自ら統治する市民主導の参加型民主主義に交代する「もう 1 つのあべこべ」をも生み出したから。

それが「3・11 以後の市民立法の可能性」。

その上、私たちは「もう 1 つの市民立法の可能性」も持っている。それが、

**過去は変えられる。**

私たちには公式の日本史に載らない、栄光の「市民立法」の遺産があるから。それが、

1872 年 [江藤新平](#)らが、司法権の独立と民が官を裁く先進的な行政訴訟を作る。

1954 年、杉並の主婦から始まった[水爆禁止署名運動](#)

1964 年、[三島・沼津の「石油コンビナート反対」の市民運動](#)

1969 年、歴史的な公害国会を引き出した東京都公害防止条例制定の市民運動

- 1995年、霞ヶ浦再生を、市民型公共事業として取り組んだ[アサザ・プロジェクト](#)
- 1997年、市民主導で成立した世界最初の条約、[対人地雷禁止条約の成立](#)。
- 1999年、市民主導で、[日本各地の条例制定の積み上げの中から制定を実現した情報公開法](#)
- 2017年、市民主導で成立した2番目の条約、核兵器禁止条約の成立。

だから、未来も変えられる。

### 【まとめ】

以上の「希望の扉」の全てを叩き、開いて、市民立法「チェルノブイリ法日本版」を実現し、あべこべをただす。それが3・11以後の私たちに残されていること、「福島と日本の希望のすべては、一つのプロジェクトの中に詰め込まれている。それが市民立法チェルノブイリ法日本版」である。

## 2、Act locally 報告

- (1)、2018年3月18～19日 市民立法「チェルノブイリ法日本版」を実行する市民団体「市民が育てる『チェルノブイリ法日本版』の会」の結成集会
- (2)、日本各地の自治体で、「チェルノブイリ法日本版」条例制定に向けての取組みスタート
- (3)、日本各地と大学で、チェルノブイリ法日本版の学習会・講義
 

1月18日 明治学院大学	10月28日 愛知県日進市
2月22日 東京都文京区	11月3日 神奈川県横須賀市
2月25日 東京光塾	11月15日 北海道室蘭市
3月25日 東京都板橋区	11月16日 北海道札幌市
4月7日 東京たんぽぽ舎	北海道旭川市
4月21日 千葉県野田市	11月17日 北海道富良野市
5月2日 獨協大学	11月24日 茨城県土浦市
6月16日 埼玉県川越市	11月29日 東京都国立市
7月14日 茨城県土浦市	12月1日 福島県郡山市
8月11日 埼玉県浦和市	12月22日 東京たんぽぽ舎
10月17日 栃木県塩谷町	2019年
10月20日 東京たんぽぽ舎	1月11～12日 三重県伊勢市&津市
10月27日 兵庫県加古川市	2月3日 千葉県成田市
- (4)、毎月1回、育てる会メンバーによるスカイプ会議。
- (5)、育てる会の横断幕、チラシ、小冊子の作成。
- (6)、日本各地で、チェルノブイリ法日本制定を訴えるイベント（デモ・集会）
- (7)、誠実なメディアの人たちの参加と連携・交流

### 【まとめ】

以上の活動は、地下深く、井戸を掘る作業に似て、地味で、目立たない取組みだった。しかし、その中で、ひとり、またひとりと、3・11以後の暗黒の時代の中で何をすべきかについて悩み、考え続けてきた人たちとの出会い、交流、共感の場が作られていった。ひとりの人間が変わることが世界が変わることである。改めて、3・11以後の私たちに残されていることは「福島と日本の希望のすべては、一つのプロジェクトの中に詰め込まれている。それが市民立法チェルノブイリ法日本版」である。

（文責 柳原敏夫）